

第1章 “未来”に夢ある暮らし 【住民生活分野】

- 町道の改良時になるべく歩道をフラットにしてもらいたい
- 除排雪は早朝より行われ道路や歩道も確保されていますが、交通安全対策の面からも交差点を広めに除雪するか雪山を低くするなど少しでも見通しを良くしてほしい
- 町営バス配送車運行事業は、現行体制では拡充は難しいと思いますが、中学校部活動や少年団活動の利用回数の増や少年団練習時間に沙留地域の子供の足を確保するために通学バスの利用等を考えてほしい
- 町道整備ですが、特に農道です。収穫作業が始まるとコントラより大型機械が通るため悪路になります。最低でもグレーダーをかけてください。確か町のグレーダーあったと思う
- 公共交通の確保・充実について：現状と課題にあるように町営バスの車両小型化を検討しているようであれば、その車両をEV車両への入れ替えすることを今後優先して検討すべきと思います。町民が直接利用できる車両をEV化することで、直接的に町民へカーボンゼロへの興部町の取り組みやバイオガスプラント事業との連携などをPRすることが可能になると思う
- 除雪体制の充実について：市街地の間口除雪は他市町村の方が羨むほどであり、町民としてとても助かっています。今後も継続してほしいです。除雪は北海道の長い厳冬期の生活にとっても影響してきます。特に子供たちの通学路の確保は早朝より取り組んでいただいているとは思いますが、より優先的な除雪作業を実施していただきたいと思います。そうすれば、各家庭で安心して子供たちを学校へ送り出すことができると思う
- 川水の汚染度の調査管理
- 河口の整備をされましたが今後も維持を継続してほしい
- 自然災害の少ない地域性をアピールして、ICT企業の誘致・ICTでまちづくりを進めてほしい
- まち中情報館の開設：住民が集まりゲーム等で年代は問わず情報共有（子供が高齢者に教育）
- 国の制度によるデジタル田園構想の推進、サイバーセキュリティ関係のオペレーターの育成
- 情報化時代であり、興部町の魅力や特産品・イベント事業・空き家情報・他町村にない事業の取組等、積極的に町のPRをしていく必要があると思う
- パソコン・携帯等に不審なメールやメッセージが送られてくるが増えています。役場等で相談できる窓口などを案内してもらえると安心できると思う
- 5Gは、使えるのですか
- ICT企業の誘致
- 女性が活躍しやすい職場づくり・環境づくり
- まち中シルバータウン、スマートシティ構想

- 農業・漁業に興味ある人、就労を希望する人に技術の講習や研修を事前に行い、不安なく仕事ができるシステムを作ってはどうか
- 農家や漁家が年間通して雇用し、生活の基盤ができるまでの補助ができないか
- 空き家バンクの案内をよく見るようになりました。これからも続けてほしい
- 人口を増やすには、住宅が無ければ駄目です。今の状況では民間企業のアパート等増えましたがまだ足りていません。公住の家賃問題もあります。収入が増えると家賃が上がる所に問題あると思います。今の情勢では、物価上昇により生活費が、圧迫しています。早急に改善してください
- 空き家利活用の促進について：空き家利活用の促進のため空き家バンクを実施しているが、その成果に不満を感じます。空き家の持ち主と買い主の間で価格面での折り合いがつかない、持ち主自身が困っていないので空き家のまま所有しているなどの事例を耳にします。空き家の持ち主に、売買や取り壊しなどの取り組みに積極的に仕向ける制度・支援の整備を検討していただきたいと思います。また、今の空き家バンクでは行っていない、空き家の価格評価や売買の手続きについては、民間業者などを利用してしっかり行える体制をとっていただきたいと思います。その際に、対策を検討すべきは地方の空き家売買が進まない理由として、宅地建物取引業法による仲介手数料の上限が決められていることである。そのため、地方での低価格な空き家では、商売としてつながらないため仲介を行う事業者が少ないのが現状のようである。この現状を改善するために、仲介実績に対して民間業者への支援や助成制度を作ることで促進するよう検討してほしいと考えています
- 下水道：大雨時に一部地域で逆流する又、排水の流れが悪い時がある
- 昨年は大雨により水道の水が濁ることがありました。これからも起こることが考えられるため、早めの対策をしてほしい
- 水道も老朽化が進んでいます。計画書作成を急いでください
- 沙留消防に職員が常駐していないため、住民との連絡体制の強化が必要
- 緊急の放送は聞きづらいことが多いです。メール登録をしているのでメールでわかることもありますが、放送の改善もしてほしいと思う
- 防災訓練は年一回では自助・共助までとはいかず、各講習会・実施訓練等参加型の住民啓発運動の開催を望む。(情報を多くの町民が共有)
- 自然災害は、少ないと思いますが、近年の気象の変化は、悪くなっています。起きてからでは遅いので、町民安全を確保することを再確認してください
- 住民啓発について、“みんなで守ろう地域の子ども” 仕事・散歩・庭いじり等なにかをしながら見守る運動（ながら運動）を推奨して、住民の意識を高めよう

- 防犯について、人口減少による警察署の縮小を見据え、防犯協会等を強化・防犯指導員の設置・自主パトロールの推進
- 交通安全対策で国道の歩道の排雪が遅い時もあるので通学路を早く確保してほしい

第2章 “未来”へ輝く産業を育てる 【産業分野】

- 担い手について、町内の大手の事業に伴い就農者に影響がある
- 農業づくりについて、比較的就農がしやすいハウス農業の推進（高付加価値野菜・果実等）
- 2次産業の拡充
- バイオマスの補助をジャイアントミスキャンサスなど植物への活用又は木材チップのセルロース等、牛の餌また敷き藁など利用を研究
- 担い手も必要だけど、従業員等農業従事者もなかなか集まらない現状です。興部町のPRと一緒に上手くできないかと思うところです。住宅も増えてきているので、この制度は継続してほしい
- 昨年、町の支援も受け研修牧場ファームトモが立ち上がり 担い手育成の核ができたと思います。今後、どのように使うかシステムの構築を町、JAともに考えていきたい
- CO2吸収力の高い木材の育成・成長の早い樹木の植林、経済林・保護林・生物を守る森林管理インフラ整備
- 漢方薬の原料となる木の植林育成
- 木材チップ原料による牛の餌による乳質の改善
- 森林整備といわれていますが、具体的な方法や依頼してできるか等の情報がほしい
- 温暖化による変化に対応、畜養・栽培事業の推進、1次～2次産業の強化
- 体験型イベントをするのはどうか
- 魚食離れについて、地元の魚が簡単に手に入らない・魚を調理できないなど特に若者の魚食離れが進んでいる。町中に直売所など設け希望に応じたサービスを提供できる様に。できたら加工品・半加工品の販売など手身近に使える環境を整える
- 人員不足が課題となっているが漁家の外国人就労者への対応についての研修を行ってほしい
- 積極的な販売のアプローチを町をあげて協力してほしい
- まち中空店舗の利用、情報及びイベント館等に活用
- 各市町村特産のアンテナショップ等
- まち中シルバータウン構想
- まち中シャッター開放運動の推進
- 酪農の丘周辺の整備・景観美化、キャンプ場の整備
- 体験事業宿泊施設（緊急時避難施設・教育体験学習合宿施設を兼ねる）の建設
- 道の駅の移設を検討
- 観光協会の見える化

- 海陸の素材を活用した食の体験事業（ハム・ソーセージ等）
- 興部町観光推進事業：観光イベント事業ではないと思いますが、牛乳の里マラソン大会について、町のイベント事業として継続していくことが必要だと思います。現在の実行委員体制（ボランティアでのお手伝い）では厳しい状況になってきています。観光協会や企業等をくわえ実行体制の強化を図り、自治体間をまぎ込み西紋地域のイベント事業へと発展させることも視野に入れることも必要ではないでしょうか
- 興部町の自然を生かした、パンケの探勝会・ポロヌプリ岳登山・酪農漁業体験ツアー等を広く宣伝をして他地域からの参加者を募集することも考えてはどうでしょうか
- ラジオで興部町商品が当たり、興部町のパンフレットが入っていて興味を惹かれたと言っていました。良いことだと嬉しく思いました。これからも続けてほしいと思う

第3章 “未来”のライフ・ステージを支える 【保健・医療・福祉分野】

- 社会福祉協議会との情報連携をし、情報の開示をしてほしい
- 自治体との連携
- 他町で行っている入院時の必需品のレンタル等を進めて助成方法の検討
- 介護医療院への転換についての対策
- 国の制度による特定認定看護師・専門性をもつ看護師の養成の推進
- 国民の2人に1人がガンに罹患する時代。終末期を家族や知人のいる地域で迎えられる体制づくりはできないものか。そのため緩和ケアの専門看護師などの育成とか考えられないか
- それぞれの組織では活動しているようですが連携が取れていないようで、情報が広がらず成果が半減しているように思う
- 目的ごとの一本化で意識の共有
- 元気な高齢者の参加を促す、やりがいとご褒美（ポイント・スタンプカード）等の活用
- 社会福祉支援員制度化
- 民生委員とタッグを組む
- 学校給食を社協との連携により高齢者給食（月1～2回程度）に利用できないか
- サポートの会が行っている“サロンほっと”の利用拡大への提案として、子育て世代との交流の場であったり、子育て世代が子連れでおしゃべりできる場の提供、その中で高齢者の知恵が発揮できれば良い。短時間の預かり保育とか有資格者が対応できればベスト。月一回程度のワンコインランチなどを提供できたらいいと思う。何もしていない中高生への場の提供とか紋別で町おこし協力隊が活動していることを参考にしてみるのも良いのでは。子供達の居場所作りも必要なのではないか
- 北海道教育局が実施していた家庭教育ナビゲーター研修をH31年度興部町でも開催し何名かの修了者もおります。そのような制度を活用関係機関との連携で取り組む。研修を受け、ナビゲーターが増えることで成果が上がる
- 子供を核とした町づくり
- 活動支援ネットワークを構築し地域ぐるみで子供を育む気運を高める体制づくり
- 教職員住宅の整備：教職員住宅が市街地では不足しており、老朽化しているため入居しない先生もいる状況で、修繕は必須ですが、住宅の増設や新築を計画的に推進する必要があると思う
- 高等学校の支援（間口対策）：高校に入学しても中学時代にやっていた部活もない、同好会を作るにも作れない状況がある。中学校やスポーツ団体等と密接な連携を図り積極的に活動の場を確保する必要はある

- 学校給食は「先生・生徒」も美味しいと好評です。さらに地場産品の活用を図り、美味しく魅力ある給食に努めてほしいと思う
- 地域による子育てへのアプローチの充実として、地域住民の子供への関わりを増やし、活動している人達への支援をしてほしい
- 発達障害など子供達に関わる問題があり、子育て支援センターの充実と専門職の配置など考えられないか
- 学童保育や放課後子供教室への支援の充実をお願いしたい
- 若い世代を定住させるためには、子育てしやすい環境が大事だと思う
- 元気な高齢者が参加しやすい体制づくり（やりがいとご褒美（ポイント・スタンプカード））
- 小規模多機能施設の開設に期待する
- 学校と長寿大学の世代間交流事業
- 現状、特養待機者が増えている中、中間施設としてグループホームや小規模多機能ホームの設立が望まれる。住み慣れた地域で暮らすため整備が望まれる。人員確保など問題点は多いが、人員育成に補助・待遇改善など支援が必要ではないか
- 介護施設については、民間を積極的に呼び込む努力も必要ではないか
- 学校での認知症サポーター講座の日数を増やして行うことも必要ではないかと思う
- 社会とつながりのできる場、障がい者の方々と共に学ぶ多様な機会・催しができ、参加しやすい環境づくり

第4章 “未来”へ羽ばたく知識を育む 【教育・文化分野】

- 高校の生徒確保のため公営塾開設に向け予算計上され、期待していますが、小学校教育1～3年生は自主性を重視・4～5年生は主体的・自立を目指すことを重視することで地域を知り、地域に興味を持ち、高校連携につながればと思う
- 中学生になると給食の量が少ないそうです
- 高校に一次産業と科学・情報教育の推進、大学を目指した偏差値から地域教育担い手の育成
- 学校運営協議会の設置の仕組みを活かした、地域住民参加の地域学校協働本部の設置
- 近年は、自閉症等の障害を持つ子供たちが増えている中、学校も大変だと思いますが支援教育を充実してください
- 学校保健・学校給食の充実：学校給食について、興部町としてより子供たちに安心、安全な給食を提供すると同時に、興部町の産物への理解向上や地産地消推進のため、給食の原材料に地元食材を積極的に使用してほしい。現在、給食には地元乳業メーカーの牛乳が提供されています。しかし、給食の原材料等の供給は入札制度があるため、民間業者の努力によってのみ供給されている実態にあると認識しています。そのほかは、町内の団体、企業による無償提供による地元食材の利用にとどまっているように見えます。子供を持つ親として、地元牛乳が毎回提供されることにとてもうれしく、興部町への誇りとなっています。しかし、民間事業者が入札制度という価格競争に勝ち抜かないと給食に地元食材を提供できない仕組みに疑問を感じています。町費を大切に支出するための入札制度の意義も理解はできますが、興部町の将来を担う子供たちに配慮しているとは言えないと思います。入札制度とは別枠で地元食材を使用する予算枠を作る、落札業者への地元食材供給に対する支援、助成などの対応を検討してほしいと思います
- 図書館の夏対策にエアコンが欲しいとの声がある（ハンディタイプの物を用意しては）
- 子供～高齢者世代間交流事業の充実
- 地域社会の担い手の育成
- 現在は長寿大学が元気に活動していますが、仲間づくり社会的孤立を防ぎ活力化へ推進
- 家庭教育支援ネットワークの構築
- みんなが集いみんなで創る図書館
- 教育資金寄附制度の新設（ふるさと納税を目的税として）
- 学校図書館の充実
- 支援員を増員し子供達の読書力の向上、先生のサポート等の充実
- 公民館の無料化、新しい公共に基づき住民活動の活性を促す。活動しやすい場づくり

- 生涯学習の環境づくりの課題として、町民の「学びたい」をしっかりと受け止めて、育てられる体制作りと、その機会とチャンスをしっかり提供できる事業（講師謝礼等の費用負担を助成してくれる事業等）を作ってほしいです。社会教育委員会は多くの生涯学習の機会を提供していますが、それが生涯学習の環境づくりではないと思います。もちろん、学習したいと思えば行政の支援なく学ぶことも可能ですが、行政が自主的な生涯学習に取り組みやすい環境を提供することは、町民憲章にある「教養を深め、かおり高い文化をそだてます」につながることであると思います
- 施設の補修予算を増額
- 住民参加型の軽スポーツの推進（ミニ運動会外・町内対抗競技）
- この町ならではの推奨する生涯スポーツの取り組み
- 学校クラブ活動の指導体制
- 地域おこし協力員の推進と共に指導体制の推進
- 各スポーツ団体は高齢化が進行し、若年層の加入者が少ない状況で継続存続が危機的状況にある。一方でスポーツをやる人達は大きな減少はないと思われませんが、現代の若者は組織に縛られることや奉仕してあげる等が希薄になってきていると思われる。同好会等にアプローチして、話し合い、協力関係を作ったり、町民の中には色々なスポーツを経験された方も多くいると思われるので、スポーツ別人材調査・アンケート調査や社教人材バンク登録者等、人材発掘をする必要があるのではないのでしょうか
- 学校部活の受け皿作りを考えると各種目での指導者養成も図る必要もあります
- スポーツ少年団や中学校部活動の時に団体種目は加入者の減少で合同チームでの活動になっており、単に団に任せるのではなく、西紋地域として活動の場を継続するための話し合いをしていく必要があると思います
- 文化財を広く住民に広め町の歴史を通じて地域を活性する取り組み
- 文化に対する支援、文化団体も人口減少でサークル数も減少し、町民の方々に参加を促す取り組み
- 現在の文化連盟に所属している団体の総合文化祭ではなく町民全員参加型へと推進
- 水は低い方へ流れ、人は文化の高い方へ移動するという興部らしい文化を模索
- 沙留中学校で各種事業に行われていた「和太鼓」現在、興部中学校で引継いでいるが今後の方向性が明確でなく社教で「継承」していくのであれば指導者養成が必要である
- 駒踊りや奴踊りは興部の文化として継承して行ってはと思います
- 米田御殿見学期間に合わせ「お茶会」等の計画を検討してみてもどうでしょうか（高校茶道部の活用）
- 郷土資料館について、いつでも自由に見学できるように他施設建設時に合わせて展示施設も併設し施設管理者が兼務するようにはと思います。（利便性を図り、経費節減にもなる）

第5章 “未来”へつなぐ環境づくり 【環境分野】

- 排熱を活用した事業
- ギ酸を活用した蓄電池がトヨタ系列の会社で実用化されたそうです。新型燃料電池関連事業の検討
- 高齢化に伴い認知症の方のゴミ処理の対策（国に補助事業がありますが）
- ごみのルールブックを配布されてから時間が経っているので、新しいルールブックを配布してもらえると良いと思います
- 現在火葬場の担当者は1名であり使用するにあたり早急の連絡が欲しいとのこと
- 町から委託事業と思うが発注の時には住民に負担のかからない対策を
- 国で火葬場の増設を考えているようですが、老朽化等補助はないですか
- 火葬場の待合室をイスで待てる部屋に整備してほしいと思います
- サイクリング用の自転車を貸していますが、サイクリングロード路肩に花を植えましょう
- 町の大通りもシャッター街となり閑散となりましたが、まち中美化運動を活用したまち中を花園公園にして季を彩る花で飾りましょう
- とりあえず空店舗のシャッターを開ける運動をしよう
- 各自治体との協力により除草等美化運動に材料費の助成金をつけて
- ふれあい農園の造園
- 子供～高齢者、生産物～加工品まで人とのつながりづくり
- 酪農の丘周辺の野山を「花の丘」として桜やスイセン等を植えているが、今後のビジョンが町民に見えていません

第6章 “未来”へ架ける協働のまちづくり 【まちづくり・行財政分野】

- まち中情報交流館の設置（空店舗）
- 子供向けゲーム機
- まん中相談室の充実
- 街ゼミ・イベント
- 女性の活動・活躍の場づくり
- 町として小さなチャレンジの種をまくプロジェクトをプロデュースし、アイデアや知識のある方を発掘し支援
- 町民の困りごと何でも相談課みたいな窓口を設置し、専門的なことは担当課へ、すぐに対応できるものは即座に解消するようなシステムづくりをしても良いのでは
- 興部町のいいところ探し、もっと愛郷心が生まれるための活動を推進してほしい
- 各種媒体を活用した情報発信の充実について：町民と行政が対話する機会が少ないなか、町民が行政のことをしるための広報誌や議会だよりの存在意義は大きいと感じています。もっと広報誌や議会だよりの内容を充実と編集向上を希望します。特に、広報誌や議会だよりの性質上なのか事業報告的な過去の話題や実績などの掲載が目立ちます。もちろんそれも大切ですが、町民にとっては行政としての今後の動向のほうが気になるところです。今後実施する取り組みや、現在協議されている事業など、そういった話題を掲載してもらえると町民も行政に関心を向ける機会が増えると思います。また、若い世代にはLINE、Twitterなどの媒体のほうが届きやすいのも事実です。それらの積極的な利用にも取り組んでほしいと思います
- 町民の方々の協力の中で子供達を中心とした教育と食を兼ね備えた寺小屋とふれあい食堂を開設し、子供達の家庭事情等地域支援
- 町民を対象としたふれあい農場・体験教育・ふる郷教育・物づくり～加工品まで
- 住民協議会の設置（各委員会を縮小して）
- 高齢化が進み自治会の活動が厳しくなっています。自治会の編成などを早めに考えていくことが必要な時がきていると思います
- まち中情報交流館の開設
- 他市町村特産品アンテナショップで交流推進
- 各スポーツ文化の交流
- 他地域と婚活を目的にしたイベントや青年団体同志の交流の場を役場が積極的に企画・運営して若者が活性できる様、指導協力してほしい

- 異業種間交流ってどうなっているのでしょうか。人口が減る中もっとふれあう場があってほしいです
- 議会について、住民による議会活動の評価・外部評価制度の導入

【その他】

- 全般に人口減少を抑えるには、住居、教育、医療等の充実が必須条件だと思います。後は、仕事があるかです。今、バイオガスプラントで行われている研究が進んで新しい燃料が出来れば新しい産業ができ、夢が生まれます。その為にも整備してください